

和歌山だよいい

平成24年 1月号



龍神スカイラインの樹氷（田辺市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P7
3. ふるさと歳時記…………… P8

～紀伊半島大水害～

まけるな!!
和歌山

「他策なかりしを信ぜんと欲す」

私の大変尊敬しているわが郷土の偉人陸奥宗光の言葉です。彼の回顧録である「蹇蹇録」の最後に、三国干渉への対応に関してこう述べているのです。

日清戦争とその後の三国干渉を外務大臣として乗り切った陸奥でしたが、日清戦争の成果を守りつつ、戦争が終わるや横から泥棒猫のように出てきた三国の横車に怒りに震えつつも、それに対抗しうる国力も持たぬ日本の外相としてどう対応していくか、その心労と困難はいかばかりであったかと思えます。

その時の言葉がこれ、「他に策はなかったと信じたいと思う」という言葉です。

私も県政を預かっていて、様々な決定をしています。時としてその意思決定が容易でないことがあります。右とせんか左とせんか、双方に理由と事情がある場合が多いからです。しかし、そういう時でも決める責任を放棄することは許されません。最大限事情を精査し、利害得失、将来の当県のあり方などを勘案し、いつまでもぐずぐず悩んでいないで決断を下す必要があるのです。私もそうやって悩みながら「これが一番いい」と考えて物事を決めています。県民の皆様もそれぞれのお立場でそうしておられると思います。それでも、次の瞬間には「本当にそれでよかったのか」と思い悩むこともあります。しかし、あれだけ徹底的に考えた末の結論だからこれでよかったと思うしかないといつも思っています。そのような気持ちを陸奥はこの言葉に込めていると思うのです。

「信ず」ではなく「信ぜん」なのです。しかもさらに「と欲す」までつけているのです。そこに、逆に陸奥がいかに心血をそそいで考えぬいて結論を出したかが見てとれます。私も県庁職員一同も「他策なかりしを信ぜんと欲す」と言えるように真剣に県政に取り組みたいと思います。



1月4日仕事始め式にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●平成23年度和歌山県文化表彰式が開催されました

- ・1月16日、平成23年度和歌山県文化表彰式が県庁の正庁で開催されました。
- ・式典では仁坂知事から受賞者に賞状と徽章、副賞が授与されました。知事は、「受賞者の方々は不断の努力と研鑽により、本県はもとより、わが国の文化の向上発展に尽くして来られた方々」とその功績を讃えました。
- ・受賞者を代表して文化賞を受賞した京都大学中辻憲夫教授は「好きな道を進んできて、認められたのは嬉しく、励みになる。これからもそれぞれの分野で感動を与えられるよう努めていきたい」と挨拶しました。
- ・また、同じく文化賞を受賞した歌手の坂本冬美さんも式典後、「ふるさとの皆さんの支えが私の原動力。これからも賞の重みに恥じないように、精進していきたい」と述べました



文化表彰受賞者（50音順、敬称略）

○文化賞

坂本冬美（歌手）、

わが国を代表する歌手の一人として活躍

中辻憲夫（京都大学教授 幹細胞生物学者・発生生物学者）

わが国の幹細胞研究や再生医学の発展に貢献

○文化功労賞

岩橋延直（和歌山児童合唱団育成会会長、和歌山県日中友好協会会長 文化活動・国際交流）

長年に渡り児童合唱団の育成と中国との民間交流に貢献

○文化奨励賞

助野嘉昭（漫画家）、

大手出版社で連載や単行本の発刊など幅広く活躍

原 大樹（プロマジシャン）、

世界大会での受賞や海外公演などで幅広く活躍

湯川雅紀（洋画家）

国内はもとよりドイツ等海外でも個展を開催し幅広く活躍

劇団華岡青洲（アマチュア劇団）

華岡青洲の妻をオリジナル脚本で演じ、地域おこしにも貢献



●「そろそろわかやまに行ってみようキャンペーン2012」 開催中

・1月20日、「紀伊半島大水害復興・そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン2012」のオープニングレセプションが東京の「原宿クエスト」で行われました。

・昨年の紀伊半島大水害から復旧が進み、観光・宿泊施設等も通常通り営業していますが、いまだにその情報が充分伝わっていません。そこで、今回のキャンペーンにより、復興を大きくアピールして、誘客を図ろうとするものです。

・オープニングで、仁坂知事は「9月の水害から道路も鉄道もすべて復旧しましたが、まだまだ、その状況が充分に伝わっていません。和歌山は今までどおり、観光客の皆さんをおもてなしできます。この機会にぜひお越し下さい。」と挨拶しました。

・レセプションには、「ふるさと大使」の坂本冬美さんや「わかやまパンダ大使」の岡本玲さん、J-POP シンガーのウインズさん、スポーツ界からも元西武ライオンズ監督の東尾修さん、体操の田中和仁さん、理恵さん、佑典さん、レスリングの湯元健一さん、進一さん、全日本男子バレーボールの植田辰哉さんなど、和歌山県出身やゆかりのある皆さんがキャンペーンサポーターズとしてゲスト参加しました。



・ステージから全員が声を揃えて「和歌山県はもう大丈夫、和歌山県は元気です」と宣言。その後、全員でこのキャンペーンのために全国から歌詞を募集、ウインズが作曲した「和歌山 LOVE SONG 2012」を熱唱し、大水害からの復興を大いにアピールしました。

・また、仁坂知事とゲストによるトークショーも実施され、各自がふるさとの味や子どもの頃の思い出など、和歌山にまつわる様々なエピソードを披露しました。「ふるさと大使」の坂本冬美さんは「海も山もどちらも楽しめるのが和歌山の素晴らしいところです」と話し、和歌山の魅力をアピールしました。

・会場は、大勢の首都圏のマスコミや旅行会社の関係者で満杯となり、熱気に溢れました。

・1月21日～22日にはJR有楽町駅I TOC I A前広場で、キャンペーンイベントが実施されました。県内の観光地の紹介や名産品販売のブースが設けられたほか、日高川町の笑い祭の実演や田辺市本宮町の奥熊野太鼓の演奏、ウインズによるミニライブも行われ、会場を行き交う人々に和歌山の復興を力強く訴えました。

・また、1月20日～2月2日の間、電飾看板を荷台に搭載した「アドトラック」3台がキャンペーンテーマソングを奏でながら東京都心を走り回り、「元気な和歌山」をアピールします。

・キャンペーンの詳細についてはわかやま喜集館内のスペシャルサイトで紹介しており、オープニングレセプションの様式もU S T R E A Mでご覧いただけます。



スペシャルサイトアドレス

http://www.kishukan.com/sorosoro_wakayama2012/index.html

● 修学旅行誘致のトップセールスを実施しました。

・1月13日、東京都内で行われた東武トラベル株式会社の全国支店長会議で、仁坂知事が修学旅行誘致のためにトップセールスを行いました。

・和歌山県への修学旅行は、歴史、文化、自然等を活かした豊富な体験メニュー「ほんまもん体験」が好評を博し、年々増加しており、平成23年度は全国から26校が訪れています。

・今回のトップセールスは、さらなる誘致拡大を図るため、本県への送客実績が高い東武トラベルに協力を要請したものです。仁坂知事は冒頭「子どもたちには、ほんまもん体験を通して達成感や満足感を味わってもらいたい。そのためには、和歌山県はトータルでサポートし、とりわけ安全対策を徹底し万全の体制でお迎えしたい。」と話し、その後、スライドを使いながら、観光スポットや食など和歌山の魅力を大いにPRしました。



・旅行業界の最前線に、直接和歌山を紹介できたことは、県を挙げて、誘致活動に取り組んでいる姿勢を強く印象づけられ、修学旅行の拡大が期待されます。

● 欧州10カ国の報道関係者が和歌山を訪問しました！！

・1月22日～23日、公益財団法人フォーリン・プレスセンターが実施する「報道関係者招聘事業」で、イタリア、スペインをはじめとする欧州10カ国の報道関係者が高野町や湯浅町を訪問しました。

・東日本大震災の影響による風評被害で外国人観光客が減少していることから、「日本の食や観光の安全性」をテーマに取材が行われました。

・22日に高野山に入った一行は高野町の佐古まち未来課長から高野山の歴史や文化につ



高野山「福智院」での知事インタビュー

いて説明を受けた後、金剛峯寺や奥の院等山内を見学。その後、宿坊「福智院」で、仁坂知事との会見が行われました。

・仁坂知事は高野・熊野に受け継がれてきた「寛容の精神」に触れながら、和歌山の自然や観光、食の豊かさなどを熱心に説明しました。また、放射能への不安に対して、福島原発事故後に和歌山で観測された放射能測定値は、1960年代に核実験が行われていた時代と比較して、極めて低い数値であることを説明しました。

・翌23日は、湯浅町の「重要伝統的建造物群保存地区」を散策した後、醤油醸造元の「(株)角長」を取材。午後には、海南市の酒造メーカー「中野BC(株)」を取材し、帰路につきました。

・今回の取材の様子は、後日、各国の新聞に記事として掲載され、世界に和歌山の魅力が発信されます。

●「ふるさと祭り東京2012」に今年も「わかやま横丁」を出展！！

・1月7日～15日、東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京2012」に、昨年度に引き続き「わかやま横丁」を出展しました。

・開催期間中、35万人以上が来場する「ふるさと祭り東京」は、県産品を首都圏の消費者にPRする絶好の機会であり、今年も、梅干やみかんをはじめ、ジュース、梅酒、スイーツなど（下記参照）県内から自慢の味が出揃いました。

・さらに、横丁内には「プレミアム和歌山」や「ふるさと和歌山わいわい市場」を紹介するコーナーも設けられ、和歌山の多彩な食の魅力をPRしました。

・1月8日には、仁坂知事も来場。「和歌山県の日」と銘打って場内でイベントを実施しました。先着300名に梅グミや観光パンフレットがプレゼントされ、ふるさとステージでは、和歌山県出身の書画家田中太山さんと仁坂知事が軽快な掛け合いで、観光と県産品を紹介しました。

・知事は「道も鉄道も全部直りました。観光の皆さんにご不便をかけることはありません。ぜひ、皆さんお越し下さい。」と復興を大いにPRしました。

・その後、黒潮市場によるマグロ解体ショーが行われ、職人の見事な包丁捌きが、満員の観客を魅了。マグロの刺身250人前がわかやま横丁で振る舞われました。

・開催期間中を通してわかやま横丁は多くの来場者の熱気に包まれていました。



今回出展された皆さん

- みかん、八朔、デコポン：和歌山県農業協同組合連合会（海南市）
- じゃばら関連商品：北山村販売センター（北山村）
- 梅酒：(株)酒のかまくら（田辺市）
- 梅干、梅関連商品：(株)岩本食品（みなべ町）
- 梅干、梅調味料：みなべいなみ農業協同組合（みなべ町）
- ジュース、コンポート：(株)伊藤農園（有田市）
- 梅干、梅エキス：井上梅干食品(株)（みなべ町）
- 和洋菓子：(株)きたかわ商品（和歌山市）
- 梅干、梅加工品：マルヤマ食品(株)（みなべ町）
- ジュース、山椒関連商品：有田川町観光協会（有田川町）

●祝！！たま駅長就任5周年

・1月5日、「たま駅長就任5周年記念式典」が和歌山電鐵貴志川線の「貴志駅」で、盛大に開催されました。

・「たま駅長」は和歌山電鐵の常務執行役員であり、和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）の称号を持ち、さらには“和歌山県観光まねき大明神”に委嘱されるなど、今や日本で最も有名な猫であると同時に最も有名な駅長と言えます。



・昨年も、アメリカの動物専門ケーブルテレビの取材をうけるなど、国内外に向け、和歌山県の魅力を発信してきました。

・今回の式典では、たま駅長の功績を讃え、和歌山電鐵小嶋光信社長から感謝状が贈呈されました。そして、5周年を契機に多忙な「たま駅長」の業務を代行する駅長代行兼伊太祁曽駅長に「ニタマ」が任命されました。

・「ニタマ」は「2番目のタマ」ということから名付けられ、元々は和歌山電鐵の親会社で拾われ飼われていた猫です。

・式典に出席した仁坂知事は「和歌山県を盛り上げるため「たま駅長」と「ニタマ駅長代行」のより一層の活躍を期待しています。」と祝辞を贈りました。

・ニタマは当面、たま駅長の公休日である日曜日に貴志駅に勤務し、新たな執務室ができる2月から、伊太祁曽駅でも勤務する予定です。

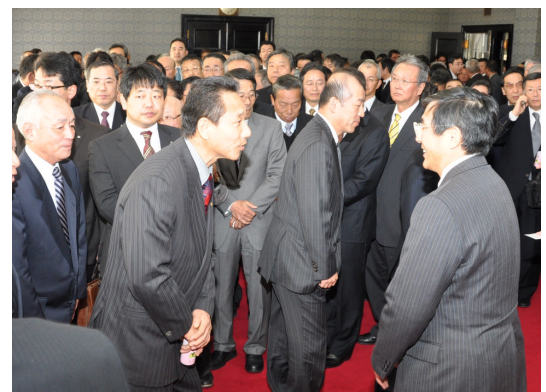
・これからも、多くの人々を和歌山に招き、訪れた人々をあたたかい気持ちにしてくれることを、「たま」と「ニタマ」に期待しています。

●平成24年新年名刺交換会開催

・1月5日、平成24年新年名刺交換会を県庁の正庁で開催しました。

・仁坂知事は「昨年の台風12号では民間の方々のご支援・ご協力により迅速な応急復旧を遂げることができた。今年は本格的な復興にむけ努力したい。」と挨拶しました。

・和歌山県産品の梅ジュースで乾杯の後、知事をはじめとする県幹部と、県内の経営者、団体の役員などあらゆる分野の方々が、始終和やかに名刺交換や情報交換を行いました。



・会場の後方には「プレミアム和歌山」の紹介コーナーを設け、参加者の皆さんをもてなしました。

● わかやま景観づくり協定第1号「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」

- ・和歌山県景観条例に基づく、わかやま景観づくり協定知事認定第1号として、海南市の「黒江の町並みを活かした景観づくり協定」が、認定されました。
- ・わかやま景観づくり協定とは、住民や事業者が相互に結んだ地域の景観づくりのルールに関する協定を、知事が認定し、公表することにより、住民参画の景観づくりを促進することを目的とした制度です。
- ・今回の協定は、歴史と伝統ある紀州漆器のまちである海南市黒江の町並みを保存していくことを目的に、黒江南ノ浜地区の方々を中心となって締結されたものです。
- ・12月27日、知事室において認定証の授与式が行われ、仁坂知事は「町並みを守っていくのは大変なことで難しいと思いますが、頑張ってください。」と話しました。
- ・協定第1号となった黒江南ノ浜地区の阪井俊夫自治会長は「古い町並みが壊されつつあり、今やらないと無理だと感じました。景観づくりのサポーターもどんどん増やして魅力ある町を作っていきたい。」と意気込みを語りました。
- ・1月22日には海南市黒江防災コミュニティセンターで同地区の取り組みなどを題材に「歴史を活かしたまちづくりシンポジウム」が開催され、黒江地区の方々も多数出席しました。この協定をきっかけに、さらに魅力的なまちづくりが進められることが期待されています。



黒江の町並みを活かした景観づくり協定の概要

- 自主ルール「黒江の町並み景観形成基準」による町並みの保全
建物の外観を紀州連子格子風にするなど、形態、色彩及び素材のルール
- 清掃美化活動や空き家等の管理・活用などの相互協力
きれいな町並みを維持保全するため住民相互が協力した取り組み
- 「黒江の町並みを活かした景観づくりサポーター」制度
黒江の景観づくりを応援する区域外の方も協働で景観づくり活動を実施
- 協定運営協議会を設置し、協定の円滑な運営を実施
協議会において「黒江の町並み景観形成基準」の自主チェック



ふるさと歳時記

今年のNHK大河ドラマは「平清盛」。今回は平清盛をはじめ平氏一門にまつわる場所等をご紹介します。

平家と熊野

「そもそも、平家かやうに繁昌せられけることを、いかにといふに、熊野権現の御利生にてぞありける。」

・平家一門の栄枯盛衰を描いた「平家物語」では、平家の隆盛は熊野権現のご利益であると記されています。「安岐守であった平清盛が、伊勢から舟で熊野を目指していると、鱸が舟の中に躍り込んできた。先達の修験者が「これは熊野権現のご利益」と言って食べるのを勧め、精進潔斎の熊野詣の途中だが、清盛は自ら調理して家来にも食べさせ、以後、平家は隆盛を極めていった。」とされています。

切目王子

・熊野九十九王子社の中でも、格が高いとされる五体王子のひとつ。「平治物語」によると、平清盛は熊野詣の途中、切目王子付近で、源氏が清盛の不在を確かめてクーデターをおこしたことを知ります。清盛は切目王子で評定（会議）を開き、熊野への参詣を中止して、都に戻り、クーデターの鎮圧に乗り出し、源氏の勢力を一掃することに成功しました。



熊野速玉大社のなぎの木

・国の天然記念物にも指定されているなぎの木は平清盛の子平重盛が植えたといわれています。

・切目王子にて京都へ引き返すと決めた時、清盛に同行していた重盛は、切目王子に勝利を祈り、熊野権現の神木であるナギの葉を鎧の射向の袖にさし、これを熊野三山の神威をかざすとして、京都に攻め入り、見事にクーデターを鎮圧しました。この後、熊野の神に感謝して、なぎの木を植えたといわれます。

山成島

・平清盛の孫、平維盛は、高野山で出家し、その後熊野三山を参詣。しかし、熊野も源氏の配下にあることを知った維盛は、那智の浜から小舟に乗り、紀の松島のひとつである山成島の沖から身を投げて、その生涯を閉じたと、「平家物語」には記されています。

・しかし、実は維盛は生き延びたとされる、落人伝説も各地に伝わっています。



大河ドラマこぼれ話

・放映中の大河ドラマ「平清盛」のタイトルコールの「撮影協力」の中に「和歌山県串本町」と入っているのをご存知でしょうか？

・オープニングで流れる海岸でのシーンのうち、3カットは串本の海だそうです。串本観光協会のホームページによると、場所は潮岬灯台より少し西側にある休憩所から、降りていった海岸で、今年の9月下旬に撮影が行われたそうです。

～編集後記～

新しい年を迎え、早や3週間余りが過ぎましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、ご存知のとおり今年はオリンピックイヤーです。イギリス・ロンドンにおいて3回目、1948年以来64年ぶりに夏のオリンピックが開催されます。

本県出身者では、レスリングの湯元兄弟や体操の田中三兄妹の兄弟揃ってのオリンピック出場が大いに期待されています。

スポーツは、いつの時代にも多くの人々に感動と勇気を与えてきました。今回のオリンピックで、どのような素晴らしいドラマが生まれるか、今から楽しみにしている方もおられると思います。

長引く景気の低迷に大災害が加わり、日本も和歌山も今の状況は決して平穏なものではありません。このような中で開催されるオリンピック。日本選手の活躍が、昨年のなでしこジャパンのように、日本中に感動の嵐を巻き起こし、復興への新たな勇気を与えてくれることを願いたいと思います。

「紀の国わかやま国体」への開催準備も、いよいよ本格化してきます。こちらも三年後の本番では、県内外に感動をもたらし、元気な和歌山の姿をアピールできるよう取り組んでまいりますので、皆様方のご支援・ご協力をお願いいたします。

寒さ厳しい日々が続いておりますが、皆様方には、お体をご自愛され、健康でお過ごしになられますよう、心からお祈りいたします。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2012年(平成24年)1月 NO.46

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022